



がまごおりじなる

がまごおりじなる特集 竹島

蒲郡のシンボルと言え、**「歩いて渡れる島」**である竹島。竹島は古から今に至るまで、多くの人に愛され続けています。

今号では、「がまごおりじなる」な竹島の魅力を再発見するとともに、皆さんの知らない竹島に迫ります。



シティセールス推進室 ☎ 66-1225

観光商工課 ☎ 66-1120

島自体が天然記念物

周囲約680メートルで囲まれ、その面積は1万9千平方メートル、長さ387メートルの石橋で陸地と結ばれている竹島。歩いて渡れるほどしか離れていないにもかかわらず、その植物体系は本土と異なります。対岸（竹島園地）にはクロマツ林が見える一方、1年中を通して島全体は緑に覆われているのが大きな特徴です。また、島内にはキノクニスゲという希少な植物（準絶滅危惧種）が生息しています。このようなことから、竹島は島全体が国の天然記念物に指定されており、貴重であることが分かります。



キノクニスゲ

イネ科と見た目がよく似ている



四季折々の良さ

竹島は、季節によって楽しみ方が変わることが魅力の一つです。それぞれの良さは甲乙つけがたく、まるで別の場所のように感じさせます。

春の竹島と言えば、潮干狩り。たくさんの方が潮の引いた海に向かい、一心不乱にアサリを探す姿は、春の風物詩。夏、秋と天気が良く過ごしやすい季節には、芝生は青々とし、小さなテントを張って潮風を楽しむ姿もあります。冬になると、人だけでなくユリカモメやホシハジロなど渡り鳥もやって来て、青く澄み渡った海に浮かびます。

また、夕方になると橋のオレンジ色の照明も合いまって、ガラリと雰囲気が変わります。皆さんは、どの風景が好きですか？



藤原俊成ってどんな人？

平安～鎌倉時代の公家。歌の才覚を持ち、千載和歌集の撰者で広く知られます。子は百人一首の歌人藤原定家。
俊成は、約3年半三河国国司として未開だったこの地を開拓したとされ、「蒲郡開発の祖」と言われています。

藤原俊成と八百富神社との関わりって？

1181年に滋賀県の竹生島から勧請（神霊を分けること）されたのが、竹島にある八百富神社です。藤原俊成が国司を務めたゆかりから勧請したとい伝えられます。



竹島へ渡ると

竹島一帯は、時には橋が鳴るほど強い風が吹きます。しかし、竹島の鳥居をくぐると、風がすっと止みます。地形のせいだと思いますが、神秘的な空気と重なってまるで別世界のように感じます。

八百富神社から

八百富神社は市杵島姫命という女の神様がまつられており、縁結びのご利益があると多くの参拝者が訪れます。また、八百富神社には「大大吉」が出るというおみくじもあり、人気スポットに。



島内には八百富神社の他に4つの神社があり、それぞれご利益が異なります。
宇賀神社（五穀豊穡）八大龍神社（厄除け）大黒神社（豊作）千歳神社（長寿・芸上達）

宮司おすすめスポット！



竜神岬（島の反対側）

島は、古くから力や神が宿る場所とされています。訪れた人には何かを感じて欲しいです。
八百富神社に来られる方の中には、ここに神社があることを知らずに訪れる方もおり、皆さん「また来たい」と言っていたできます。自然と足が向いては、心がスッキリとして帰るそんな場所なのかもしれません。

自然と足が向く場所
それが竹島



八百富神社 宮司 市川 典明

～滝信四郎が愛した竹島風景～ 竹島には橋がなかった？

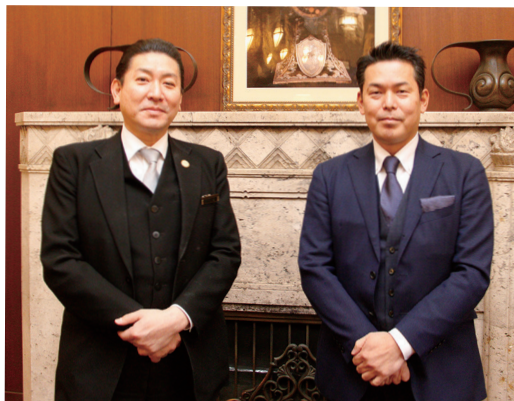
竹島は、12年に1回の竹島弁天御開帳時のみ渡ることができる島でした。そのため、当初は船で島へ渡り、そのうち御開帳の年だけに木造の仮橋が架けられるようになりました。その頃、大正元年に和風旅館「常磐館」を開業した滝信四郎が竹島の発展を願い、昭和7年に橋を寄付しました。蒲郡の地を愛した滝さんの思いは、今でも継承されています。



外国人に愛された竹島

古くから旅館たたずむこの蒲郡の地に、唯一存在する洋風のホテル。蒲郡クラシックホテルの歴史は、さかのぼること昭和初期。その頃の日本は、外国人を観光誘致するために外国人に好まれる国際的なホテルの建設を進めようとしていました。国からの融資や滝信四郎の寄付を受け、昭和9年に開業（当時は蒲郡ホテル）。日本らしさの象徴でもある城をイメージした外観と、外国様式に合わせた内装を融合させた造りが、当時の多くの人を驚かせました。ホテルは、1回目に指定された国際観光ホテルの1つとして開業し、その年に日米野球のため来日していたペーブ・ルースを含むアメリカ代表野球選手が宿泊しました。

現蒲郡クラシックホテルに入ると蒲郡ホテル当時の名残を見ることができます。その1つが、エレベーターの階表示の針です。昭和風情漂う一品は、今も元気に動き続けています。



支配人
石原 考康

総支配人
安川 貴也

総支配人に聞きました

当ホテル周辺は、蒲郡ホテル時代にはテニスコート、プール、遊技場などもあったと聞いています。全て取り壊してしまったので今では知らない人も多いですが、レジャーが凝縮したエリアでした。このようなホテルの昔話をブログにしたためていますので、ぜひ当ホテルのホームページへ。

石原支配人
おすすめスポット

自身が観光ボランティアガイドをしているという石原支配人。竹島まで歩いて振り返った時そびえたつ蒲郡クラシックホテルは見る人をハッと驚かせるといいます。



竹島から見た
蒲郡クラシックホテル

安川総支配人
おすすめスポット

絶景を絶好の場所で。優雅に流れる空気がたまらないと話す安川総支配人。疲れた時は、ここでゆっくりティータイムを過ごしてほしいそうです。



ホテルラウンジからの竹島風景

文豪が愛した竹島

竹島の景色は、大正・昭和期の文人たちにも影響を与えています。とりわけ、和風旅館「常磐館」には菊池寛、志賀直哉、谷崎潤一郎など名だたる作家たちが訪れそこからの景色に魅了されたと言います。彼らの作品の中には、竹島の風景が登場する場面もあり、竹島に心動かされた文人たちの作品の中で、素朴な美しさが描かれています。



竹島にある海辺の文学記念館は、常磐館を復元した建物。多くは再現されたものですが、装飾品などの中には当時の時代に使用されていたものもあります。館内では、蒲郡とゆかりのある作品・文豪を紹介しています。時がさかのぼったような不思議な感覚が味わえる、そんな場所です。

海辺の文学記念館 ☎ 67-0070